

ECONOMY TOPICS

経済トピックス

2012.2.15

No.413



業況 BSI、3 期連続で上昇 (平成 23 年 10 ~ 12 月期の県内企業業況調査結果)

調査内容 平成 23 年 10 ~ 12 月期の県内企業の業況実績
平成 24 年 1 ~ 3 月期の県内企業の業況見通し
特別調査 県内企業の平成 23 年冬のボーナス支給状況

調査時期 平成 24 年 1 月中旬

調査対象企業 県内中堅企業 240 社

回答企業 129 社(回収率:53.8%)

}	製造業 27 社	建設業 22 社	卸売業 29 社
	小売業 23 社	運輸業 11 社	サービス業 17 社
}	青森地区 43 社	津軽地区 36 社	県南地区 50 社

BSIとは

Business Survey Index の略であり、企業業況判断指標という意味である
指標の求め方は次の通り

BSI = 「業況良好企業及びやや良好企業の割合」 - 「業況不振及びやや不振企業の割合」

注:業況判断は前年同期との比較による

1. 概 況

平成 23 年 10～12 月期の全産業「業況 BSI」は前期(23 年 7～9 月期)比 12.7 ポイント上昇の 8.9 となった。震災からの復旧・復興の影響や消費マインドの回復などから 3 期連続の上昇となった。

一方、全産業「採算 BSI」は前期比 1.6 ポイント上昇の 9.4 となった。採算悪化とする割合は 2 期連続で 30%を下回り、全体としては悪化傾向に歯止めがかかりつつある様子が見られた。

主要 BSI をみると、「生産高 BSI」、「操業度 BSI」はともに 3 期連続で上昇した。麺類、飲料、鉄鋼、一般機械、精密機器で増産の動きが見られた。

建設業の「受注高 BSI」は、震災からの復旧・復興需要などにより、受注増加の割合が幾分増加したものの、受注減少の割合が再び 6 割近くに増加し、大幅に低下した。

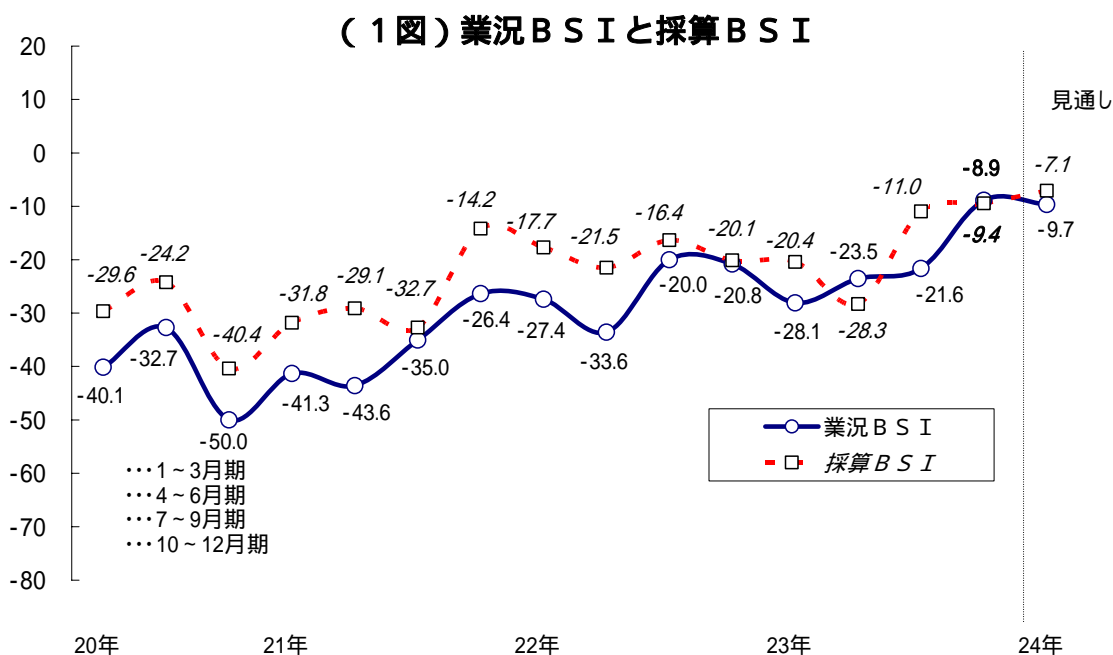
「売上高 BSI」は、小売業が大幅に上昇

したほか、運輸・サービス業、卸売業も上昇した。「出荷高 BSI」は麺類、鉄鋼、精密機器で増加が見られたものの、パルプ・紙で出荷減少が目立ったほか、飲料、化学などでも減少が見られた。

「設備投資 BSI」は、製造業が震災復旧関連や更新・更改に加え、能力増強など積極的な投資が見られ、前々期並の水準に大幅上昇した。非製造業は小売業、運輸サービス業で動きが見られたものの、全体としては前期比幾分低下した。

来期の見通しをみると、全産業ベースでは「業況 BSI」が当期比幾分の低下が見込まれており、「採算 BSI」は幾分上昇する見通しである。来期の業況は小売業、建設業で大幅に低下する一方、卸売業、運輸・サービス業は上昇、製造業は横バイとなる見通しである。

(以上、1～12 図、1 表 参照)



2. 23年10～12月期の業況

(1) 業況 小売業が大幅に改善、3期連続で上昇

23年10～12月期の全産業「業況BSI」は前期比12.7ポイント上昇の-8.9となった。業況判断の内訳をみると、業況好転とした企業の割合は同9.5ポイント増加の33.1%、一方、業況悪化とした企業の割合は同3.4ポイント減少の41.9%となった。

産業別の「業況BSI」をみると、製造業は前期比5.7ポイント上昇の±0.0となった。飲料、パルプ・紙、化学などで業況悪化したものの、食料品の水産加工、麺類や鉄鋼、精密機械、造船などで好転がみられた。

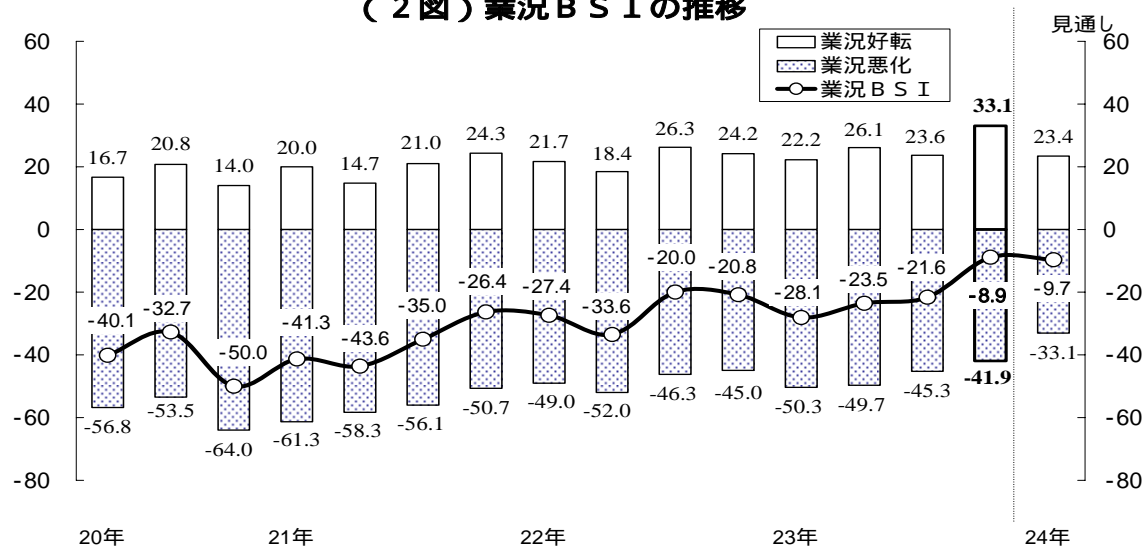
非製造業は、小売業が前期比42.9ポイント上昇の42.9と大幅に上昇したほか、運輸・サービス業が同16.0ポイント上昇の18.5、卸売業が同10.4ポイント上昇の29.6となった。一方、建設業は同4.2ポイント低下の-31.8となった。小売業は乗用車

販売、燃料で好転割合が広がったほか、酒類、菓子、貨物車販売などで好転がみられた。運輸・サービス業は道路貨物運送で悪化が続いているものの、情報処理、信販、不動産賃貸、リースなどで好転がみられたほか、宿泊で悪化割合が縮小した。卸売業は建築資材で悪化割合が幾分広がったものの、水産物、青果物、農業機械、燃料などで好転がみられた。建設業は業況好転とする割合が減少し、悪化割合が増加した。

当期の「業況BSI」は建設業で幾分低下したものの、震災からの復旧・復興の影響や消費マインドの回復などから小売業で大幅に上昇するなど、全体では3期連続の上昇となった。

(以上、2図、付表 参照)

(2図) 業況BSIの推移



(付表) 産業別業況BSIの推移

	製造業	建設業	卸売業	小売業	運輸・サービス	合計
22年10-12月期	-3.1	-55.6	12.9	-53.8	-15.2	-20.8
23年1-3月期	-9.7	-53.1	-14.7	-34.8	-30.3	-28.1
23年4-6月期	-9.7	-50.0	-11.8	0.0	-39.4	-23.5
23年7-9月期	-5.7	-27.6	-40.0	0.0	-34.5	-21.6
23年10-12月期	0.0	-31.8	-29.6	42.9	-18.5	-8.9
来期見通し	0.0	-59.1	-3.7	14.3	-3.7	-9.7

(2) 採算の状況

「採算BSI」2期連続で上昇

23年10～12月期の「採算BSI」は前期比1.6ポイント上昇の9.4となり、2期連続で上昇した。採算判断の内訳をみると、採算好転企業の割合は同0.5ポイント減少の17.5%、一方、採算悪化企業の割合は同2.0ポイント減少の26.8%となった。

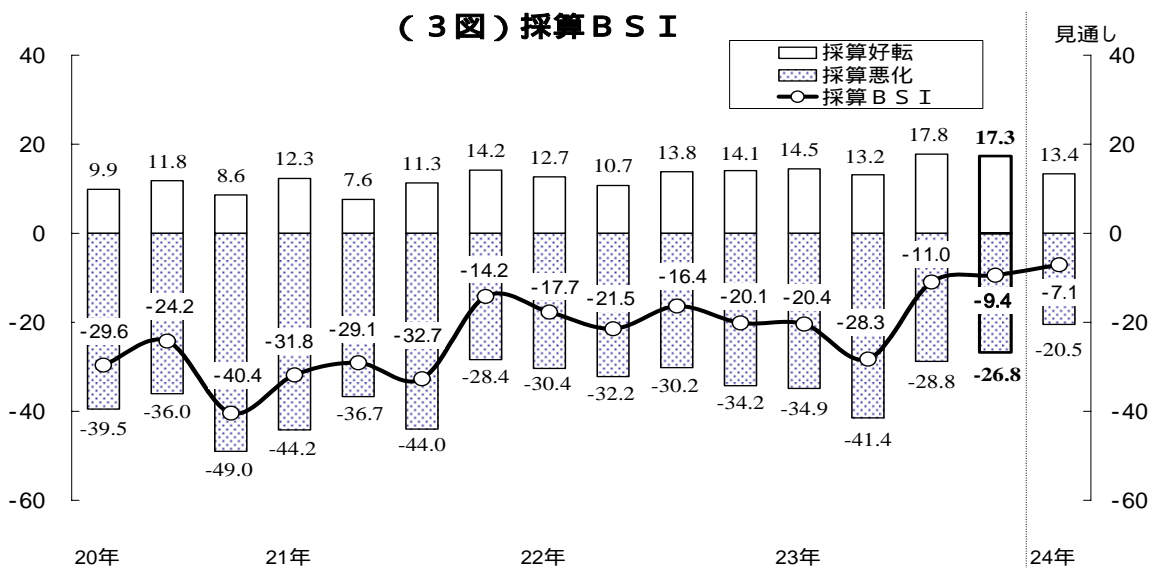
産業別の「採算BSI」をみると、製造業は前期比9.5ポイント上昇の11.1となった。調味料、飲料、パルプ・紙、化学、生コンで採算悪化がみられたものの、水産加工、鉄鋼、精密機器では好転がみられた。

非製造業は、卸売業が前期比9.5ポイント上昇の3.4、運輸・サービス業が同6.1ポイント上昇の11.1とそれぞれ改善がみられた。一方、建設業は同16.9ポイント低下の-45.5、小売業は同10.6ポイント低下

22.7となった。卸売業は青果物、紙類などで採算悪化がみられたものの、水産物、建築資材で好転がみられた。運輸・サービス業は道路貨物運送、宿泊関連で悪化がみられたものの、旅客運送、情報処理、不動産賃貸などで好転がみられた。建設業は前期同様好転がみられず、悪化とする割合が広がった。小売業は宝飾、燃料で好転がみられたほか、乗用車販売で好転割合が広がったものの、スーパー、百貨店で悪化がみられた。

当期の「採算BSI」は、採算悪化とする割合が2期連続で30%を下回り、全体としては悪化傾向に歯止めがかかりつつある様子がかがわれた。

(以上、3図、付表 参照)



(付表) 産業別採算BSIの推移

	製造業	建設業	卸売業	小売業	運輸・サービス	合計
22年10 - 12月期	-3.2	-57.7	3.2	-35.7	-15.2	-20.1
23年1 - 3月期	-16.7	-38.7	-8.8	-4.2	-30.3	-20.4
23年4 - 6月期	-20.0	-38.7	-20.6	0.0	-54.5	-28.3
23年7 - 9月期	-20.6	-28.6	-12.9	33.3	-17.2	-11.0
23年10 - 12月期	-11.1	-45.5	-3.4	22.7	-11.1	-9.4
来期見通し	3.7	-45.5	-3.4	-4.5	7.4	-7.1

(3) 生産高・操業度の状況

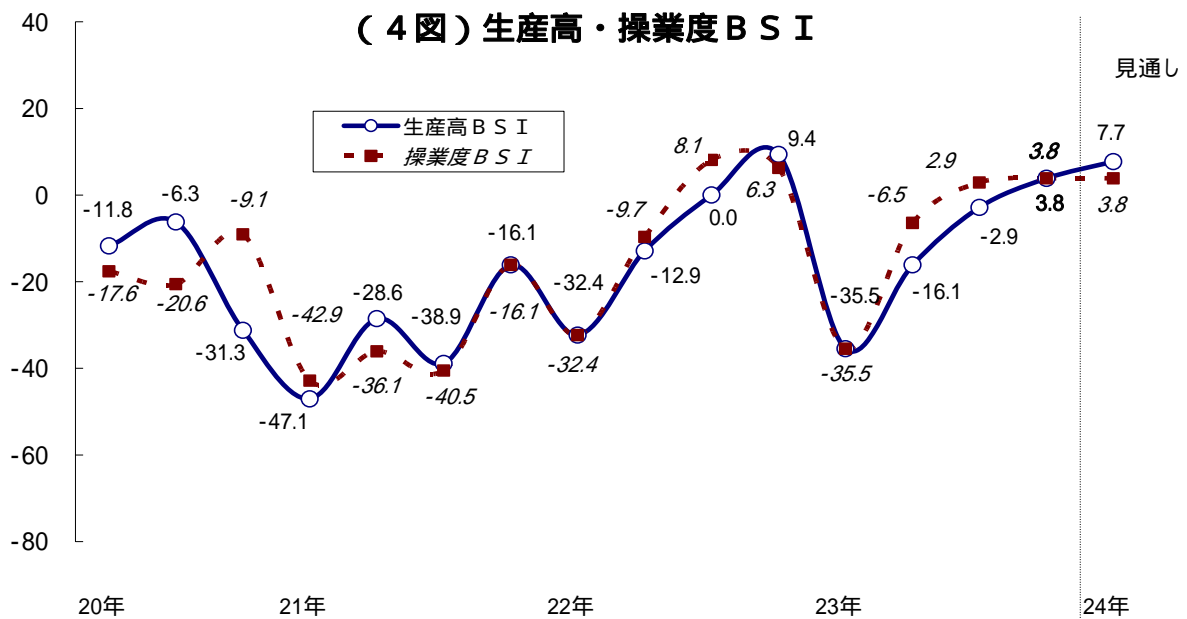
「生産高 BSI」、「操業度 BSI」とも 3 期連続で上昇

23 年 10～12 月期の「生産高 BSI」は前期比 6.7 ポイント上昇の 3.8、「操業度 BSI」は同 0.9 ポイント上昇の 3.8 となり、ともに 3 期連続で上昇した。

食料品の酒類、調味料やパルプ・紙、化学、生コンなどで減産の動きがうかがわれたものの、麺類、飲料、鉄鋼、一般機械、精密機器では増産の動きがみられた。

なお、来期は「生産高 BSI」が当期比 3.9 ポイント上昇の 7.7 となり、「操業度 BSI」は同横バイの 3.8 となる見通しである。飲料で減産に転じる動きがみられるものの、木材・木製品、パルプ・紙、電子部品・デバイスなどで増産に転じる動きが見込まれている。

(以上、4 図 参照)



(4) 受注高の状況

「受注高 BSI」大幅に低下、受注減少の割合が約 6 割に拡大

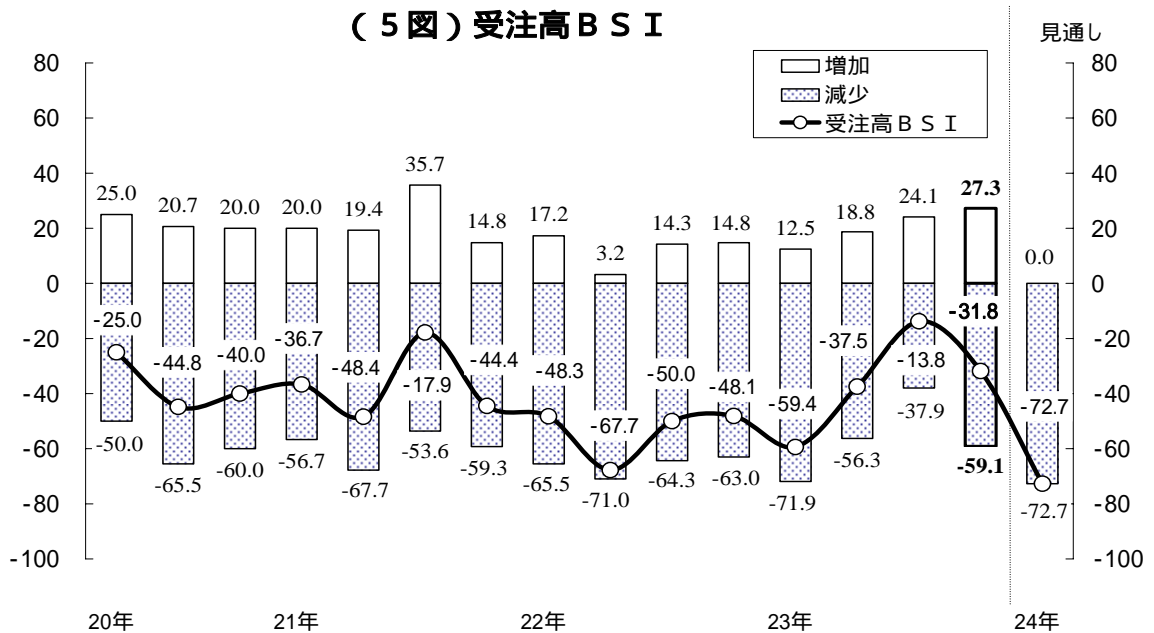
23 年 10～12 月期の建設業の「受注高 BSI」は前期比 18.0 ポイント低下の 31.8 となった。内訳をみると、受注増加とする企業の割合が同 3.2 ポイント増加の 27.3% となったものの、受注減少とする企業の割合は同 21.2 ポイント増加の 59.1% となった。

当期は震災からの復旧・復興需要などから受注増加とする割合が 2 期連続で 20% を超えたものの、受注減少とする割合は再び 6 割近くに拡大し、BSI は大幅に低下した。

来期は受注増加とする企業がゼロとなり、受注減少とする企業の割合は 72.7% となる

見通しである。この結果、「受注高 BSI」は
当期比 40.9 ポイント低下の 72.7 と、厳し
い受注環境となることが予想される。

(以上、5 図 参照)



(5) 売上高・出荷高の状況

小売業の「売上高 BSI」大幅上昇

23 年 10～12 月期の「売上高 BSI」は、
前期比 14.1 ポイント上昇の 16.5 となっ
た。

産業別の「売上高 BSI」をみると、小売業
が前期比 35.1 ポイント上昇の 39.1 と大幅
に改善したほか、運輸・サービス業が同
11.0 ポイント上昇の 40.7 となり、卸売業
は同 0.8 ポイント上昇の 37.9 と幾分上昇
した。

小売業はスーパーの増加基調が続いて
いるほか、宝飾品、乗用車、貨物自動車、
燃料で売上増加の動きが目立った。運輸・
サービス業は旅客運送、道路貨物運送、宿
泊、ガス供給などで減少が目立ったもの
の、信販、リース、不動産賃貸で増加が
みられた。卸売業は建築資材、青果物、
紙類などで減少が目立っているものの、
水産物、農業機械、燃料で増加の動き
がみられた。

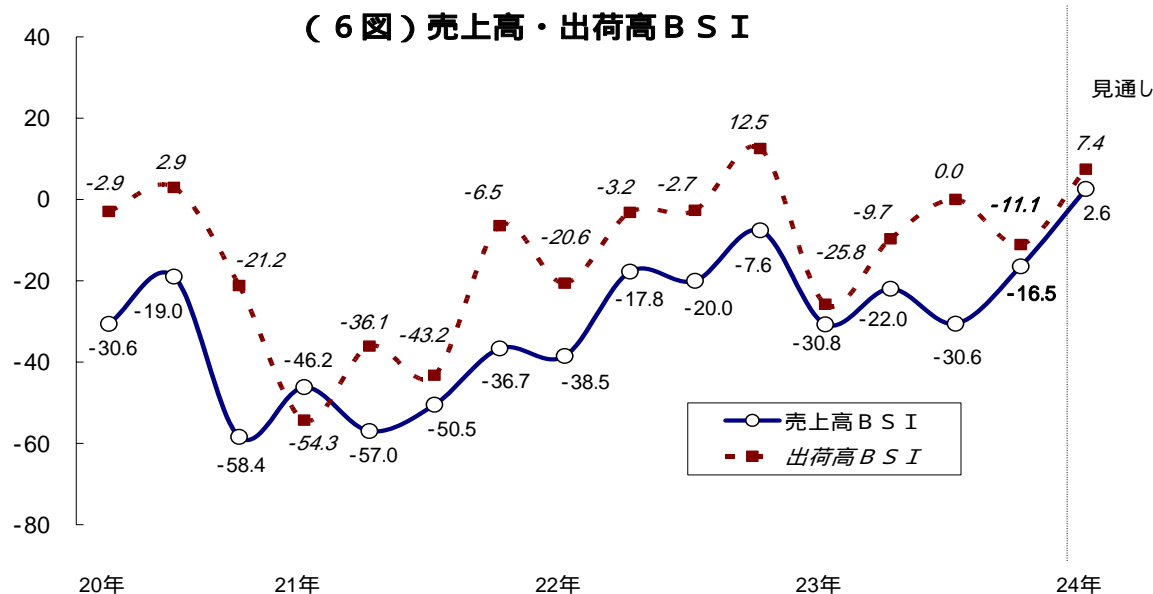
なお、来期の「売上高 BSI」は、小売業で

低下が見込まれるものの、卸売業、運輸・サ
ービス業では大幅な改善が見込まれており、
当期比 19.1 ポイント上昇の 2.6 とプラスに
転じる見通しである。

製造業の 23 年 10～12 月期の「出荷高
BSI」は前期比 11.1 ポイント低下の 11.1
となった。麺類、鉄鋼、精密機器で増加が
みられたものの、パルプ・紙で出荷減少が
目立ったほか、飲料、化学などでも減少が
みられた。

なお、来期の「出荷高 BSI」は、パルプ・
紙、一般機械、電子部品・デバイスで増産
に転じる動きが見込まれており、当期比
18.5 ポイント上昇の 7.4 とプラスに転じる見
通しである。

(以上、6 図、付表 参照)



(付表) 売上高・出荷高 B S I の推移

	出荷高BSI		売上高BSI		
	製造業	卸売業	小売業	運輸・サービス	
22年10 - 12月期	12.5	16.1	-28.6	-12.1	-7.6
23年 1 - 3月期	-25.8	-14.7	-54.2	-30.3	-30.8
23年 4 - 6月期	-9.7	-8.8	-12.5	-42.4	-22.0
23年 7 - 9月期	0.0	-38.7	4.0	-51.7	-30.6
23年10 - 12月期	-11.1	-37.9	39.1	-40.7	-16.5
来期見通し	7.4	-10.7	13.0	7.4	2.6

(6) 価格の状況

価格ギャップ、非製造業で大幅改善

23年10～12月期の「仕入単価 BSI」は前期比 6.6 ポイント低下の 31.7 となり、2 期連続で低下した。

産業別にみると、製造業が前期比 0.5 ポイント低下の 48.1、非製造業が同 8.4 ポイント低下の 25.7 となった。製造業は、食品全般やパルプ・紙、鉄鋼、精密機器で仕入単価上昇の動きが広がっているが、窯業・土石では上昇とする割合が縮小した。

非製造業は、卸売業が前期比 18.3 ポイント低下の 17.2、小売業が同 6.3 ポイント低下の 21.7 となった。一方、建設業は同 3.0 ポイント上昇の 40.9 となった。卸売業は青果物、燃料などで仕入単価上昇がみられた

ものの、建築資材で低下に転じる動きが目立った。小売業は燃料の一部で低下に転じる動きがみられた。建設業は土木関連で上昇とする割合が増加した。

次に、23年10～12月期の「販売単価 BSI」は前期比 3.9 ポイント上昇の 5.5 となった。

産業別にみると、製造業が前期比 5.4 ポイント低下の 11.1、非製造業は同 6.5 ポイント上昇の 4.0 となった。製造業は水産加工、麺類、鉄鋼で販売単価上昇がみられたものの、パルプ・紙、生コン、精密機械で低下の動きがみられた。

非製造業は、運輸・サービス業が前期比

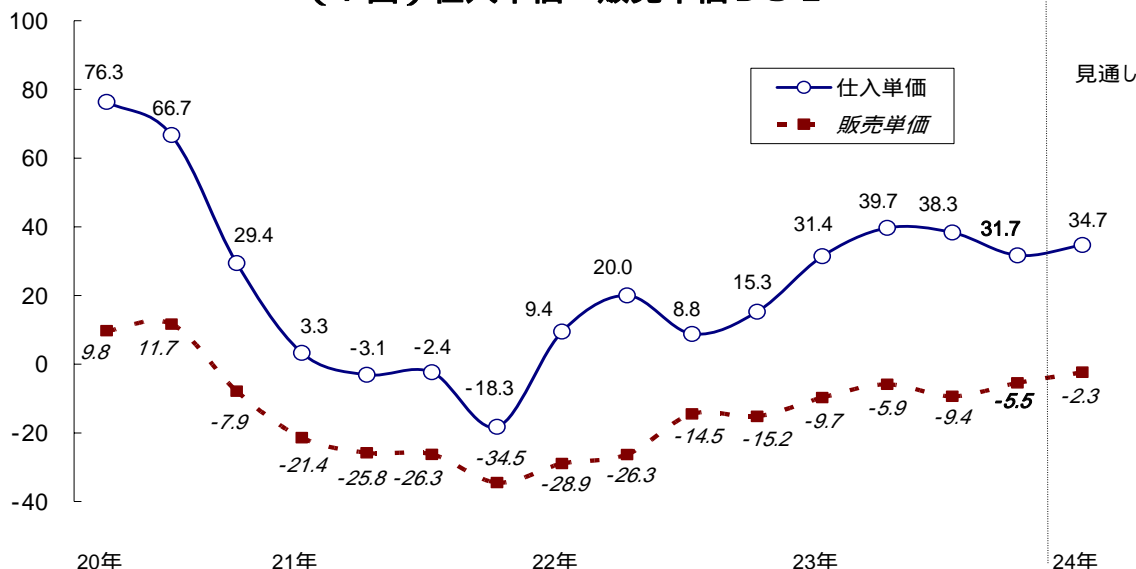
20.4ポイント上昇の3.7と大幅に上昇したほか、卸売業が同7.1ポイント上昇の10.3となった。一方、小売業は同7.3ポイント低下の8.7、建設業は同1.9ポイント低下の36.4とそれぞれ低下した。運輸・サービス業は宿泊、情報処理で販売単価上昇に転じる動きがみられたほか、旅客で低下とする割合が縮小した。卸売業は建築資材で低下がみられたものの、青果物、燃料、米穀などで上昇した。小売業は宝飾、燃料で上昇がみられたものの、スーパー、貨物自動車などで低下に転じる動きがみられた。

価格面の動きをみると、当期は仕入単価BSIの低下、販売単価BSIの上昇がみられた。このところ拡大傾向にあった価格ギャップは非製造業で大幅に改善がみられ、全体としては縮小した。

なお、来期については、「仕入単価BSI」が当期比3.0ポイント上昇の34.7、「販売単価BSI」は同3.2ポイント上昇の2.3と、それぞれ幾分上昇が見込まれており、価格ギャップは、全体としてはほぼ当期並みで推移する見通しである。

(以上、7図、付表 参照)

(7図) 仕入単価・販売単価BSI



(付表) 仕入単価BSIの推移 (上昇-低下)

	製造業					仕入単価BSI
	建設業	卸売業	小売業	非製造業		
22年10 - 12月期	25.0	0.0	19.4	14.3	11.6	15.3
23年1 - 3月期	38.7	40.6	20.6	25.0	28.9	31.4
23年4 - 6月期	54.8	37.5	41.2	20.8	34.4	39.7
23年7 - 9月期	48.6	37.9	35.5	28.0	34.1	38.3
23年10 - 12月期	48.1	40.9	17.2	21.7	25.7	31.7
来期見通し	37.0	54.5	13.8	39.1	33.8	34.7

(付表) 販売単価BSIの推移 (上昇-低下)

	製造業					非製造業	販売単価BSI
	建設業	卸売業	小売業	運輸・サービス			
22年10 - 12月期	-12.5	-44.4	0.0	-7.1	-15.2	-16.0	-15.2
23年1 - 3月期	-9.7	-28.1	-2.9	4.2	-9.1	-9.8	-9.7
23年4 - 6月期	-6.5	-28.1	5.9	20.8	-15.6	-5.7	-5.9
23年7 - 9月期	-5.7	-34.5	3.2	16.0	-24.1	-10.5	-9.4
23年10 - 12月期	-11.1	-36.4	10.3	8.7	-3.7	-4.0	-5.5
来期見通し	3.7	-36.4	3.4	17.4	-3.7	-4.0	-2.3

(7) 在庫投資・在庫水準の状況

製造業で在庫積み増しの動き

23年10～12月期の「在庫投資BSI」は、製造業が前期比31.6ポイント上昇の25.9と大幅に上昇し、非製造業は同6.9ポイント上昇の2.0となった。

製造業は、パルプ・紙で在庫積み増しの動きが目立ったほか、鉄鋼、一般機械、食料の水産加工、麺類、飲料でも積み増しの動きがみられた。非製造業は、卸売業の青果物や小売業の衣料品などで手控えの動きがみられたものの、卸売業の水産物、建築資材や小売業の貨物自動車などでは積み増しの動きがみられた。

なお、来期の在庫投資BSIは、製造業が当期比11.1ポイント低下の14.8、非製造業は同5.8ポイント低下の7.8と、ともに手控えの動きが見込まれている。

次に在庫水準についてみると、まず製造

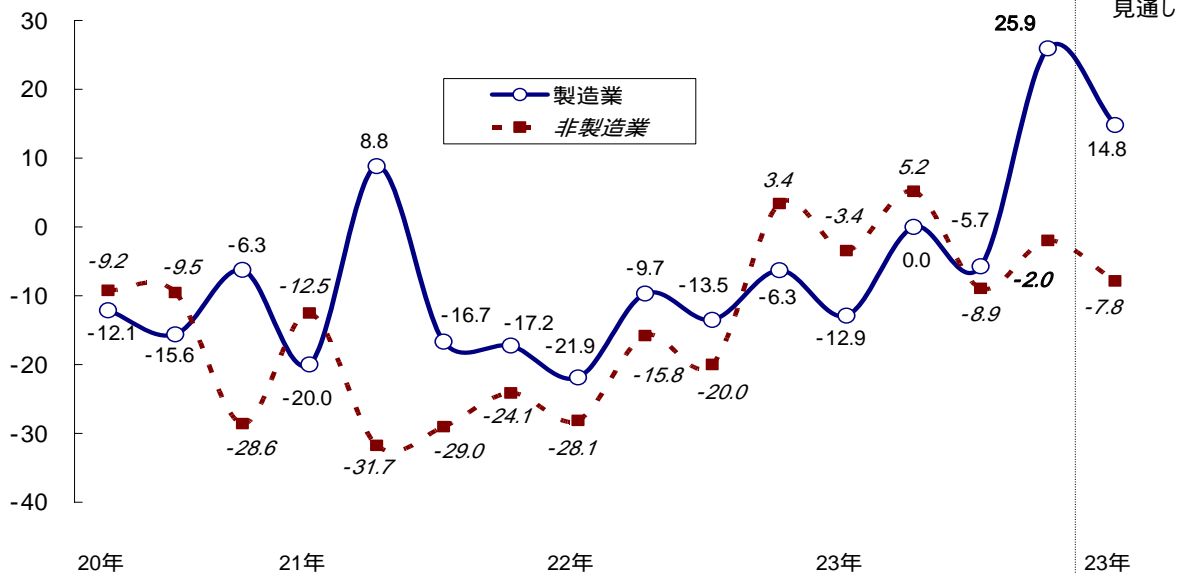
業の「原材料在庫水準BSI」は前期比0.9ポイント低下の3.8と、幾分低下したもののほぼ適正圏内での動きとなった。来期は3.8と当期比横バイとなる見通しである。

一方、「製品・商品在庫水準BSI」は、製造業の製品在庫水準BSIが前期比18.5ポイント上昇の18.5、卸・小売業の「商品在庫水準BSI」は同5.8ポイント上昇の5.8となった。

製品は水産加工、パルプ・紙、化学、生コンで過剰感がみられた。商品は小売の乗用車販売で不足感がみられたものの、卸売業の水産物、建築資材、農機具などでは過剰感がみられた。来期は商品がほぼ適正圏内となる見通しであるが、製品は過剰感が続くものとみられる。

(以上、8図、付表 参照)

(8図) 在庫投資BSI (製造業、非製造業)



(付表) 在庫関連BSIの推移

	在庫投資BSI		原材料在庫水準BSI	製品・商品在庫水準BSI	
	製造業	非製造業	製造業	製造業	卸・小売業
22年10 - 12月期	-6.3	3.4	-6.5	15.6	15.3
23年1 - 3月期	-12.9	-3.4	-10.0	0.0	-3.4
23年4 - 6月期	0.0	5.2	-10.0	-3.3	-1.7
23年7 - 9月期	-5.7	-8.9	-2.9	0.0	0.0
23年10 - 12月期	25.9	-2.0	-3.8	18.5	5.8
来期見通し	14.8	-7.8	-3.8	14.8	-1.9

(8) 設備投資の動向

製造業は前期比大幅上昇

23年10～12月期の「設備投資BSI」は、製造業が前期比17.7ポイント上昇の14.8と大幅に上昇した。一方、非製造業は同3.1ポイント低下の-12.5となった。

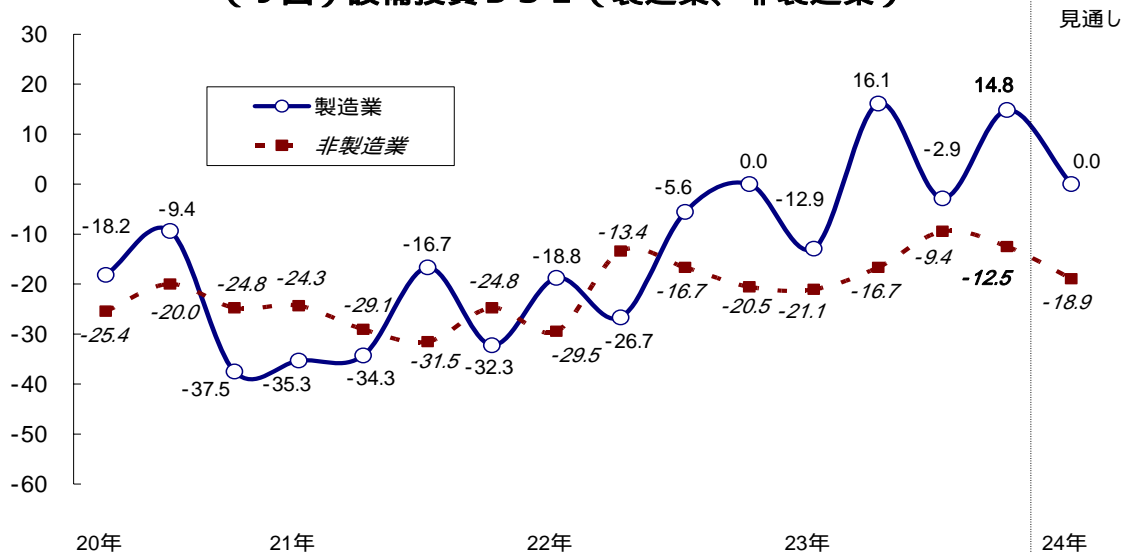
製造業は、酒類、生コンなど一部で投資縮小の動きがみられたものの、全体としては更新・更改に加え、能力増強など積極的な投資もみられ、前々期並みの水準となった。水産加工、パルプ・紙、造船で機械・工場の震災復旧・復興関連への投資、麺類で生産機器導入、鉄鋼で厚生施設、既存設備更新への投資、一般機械で生産能力増強への投資などがみられた。

非製造業をみると、建設業は車両購入、工場の照明設備などの投資がみられたものの、全体に低調な動きとなった。卸売業は水産物で販売システムの導入、保冷库建設

などの投資がみられたものの、建設資材、青果物、紙類では縮小の動きが目立った。小売業はスーパーで店舗取得・改装、省エネ対策などの投資がみられたほか、酒類販売で照明設備、冷蔵庫購入などの動きがみられた。運輸・サービス業では道路貨物運送で土地、事務所取得、車輛、荷役機械購入などの投資、鉄道で線路・車輛設備の更新、リースでレンタル資産購入投資、福祉関連で老人ホーム建設などの投資がみられた。なお、来期の「設備投資BSI」は、製造業が当期比14.8ポイント低下の±0.0となり、非製造業は同6.4ポイント低下の-18.9と見込まれている。

(以上、9図参照)

(9図) 設備投資BSI (製造業、非製造業)



(9) 企業金融の動向

「借入金利BSI」の低下傾向続く

23年10～12月期の企業金融の動向をみると、「現金・預金BSI」が前期比0.4ポイ

ント低下の4.0と幾分低下した。一方、「借入難易BSI」は同2.7ポイント上昇の4.2、

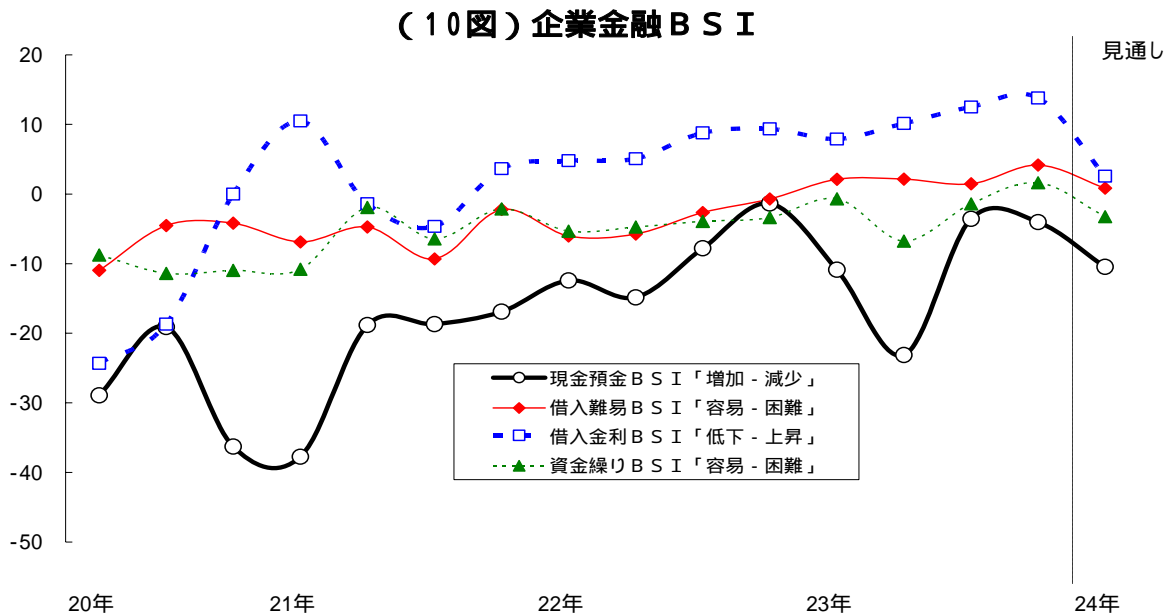
「借入金利 BSI」は同 1.3 ポイント上昇の 13.8、「資金繰り難易 BSI」は同 3.0 ポイント上昇の 1.6 とそれぞれ上昇した。

当期は各 BSI とも前期に比べ小幅な変動にとどまった。借入金利は震災復興支援関連などの影響から低下傾向が続いており、

手元資金、借入難易度、資金繰りは比較的落ち着いた動きとなった。

なお、来期は手元資金の減少が見込まれるほか、借入金利が上昇するものとみられる。

(以上、10 図、付表 参照)



(付表) 企業金融 B S I の推移

	現金預金BSI (増加 - 減少)	借入難易BSI (容易 - 困難)	借入金利BSI (低下 - 上昇)	資金繰りBSI (容易 - 困難)
22年10 - 12月期	-1.4	-0.7	9.4	-3.4
23年 1 - 3月期	-10.9	2.1	7.9	-0.7
23年 4 - 6月期	-23.1	2.1	10.1	-6.8
23年 7 - 9月期	-3.6	1.5	12.5	-1.4
23年10 - 12月期	-4.0	4.2	13.8	1.6
来期見通し	-10.5	0.8	2.6	-3.3

(10) 地区別の状況

「業況 BSI」、「売上高 BSI」、3 地区ともに上昇

23 年 10 ~ 12 月期の「業況 BSI」を地区別にみると、津軽地区が前期比 18.6 ポイント上昇の 25.0、青森地区が同 14.5 ポイント上昇の 2.5、県南地区が同 9.0 ポイント上昇の 6.3 と、3 地区ともに上昇した。

主要 BSI をみると、まず、「生産高 BSI」

は、津軽地区が前期比 37.5 ポイント上昇の ±0.0、県南地区が同 1.4 ポイント上昇の 6.7 となった。一方、青森地区は同 12.5 ポイント低下の ±0.0 となった。

「出荷高 BSI」は、青森地区が前期比 17.5 ポイント低下の 20.0、津軽地区が同

8.3 ポイント低下の 33.3、県南地区が同 7.2 ポイント低下の 12.5 と、3 地区ともに低下した。

「売上高 BSI」は、県南地区が前期比 29.8 ポイント上昇の 15.4、青森地区が同 5.8 ポイント上昇の 16.1、津軽地区が同 4.5 ポイント上昇の 18.2 と、3 地区ともに上昇した。

建設業の「受注高 BSI」は、津軽地区が前期比 55.0 ポイント低下の 75.0 となった。一方、県南地区は同 9.7 ポイント上昇の 12.5 となり、青森地区は同横バイの ±0.0、となった。

「在庫投資 BSI」は、県南地区が前期比 17.8 ポイント上昇の 15.2、津軽地区が同 16.6 ポイント上昇の 11.8、青森地区が同 12.5 ポイント上昇の 3.6 となり、3 地区ともに上昇した。

「採算 BSI」は、県南地区が前期比 8.2 ポイント上昇の 2.0、青森地区が同 6.6 ポイ

ント上昇の 2.4 となった。一方、津軽地区は同 12.8 ポイント低下の 33.3 となった。

当期は「業況・売上高・在庫投資 BSI」が 3 地区とも上昇したが、「生産高・受注高・採算 BSI」などは産業構造の違いなどからバラツキがみられた。

なお、来期の「業況 BSI」をみると、津軽地区が当期比 13.9 ポイント上昇の 11.1 と改善が見込まれる一方、県南地区は同 12.5 ポイント低下の 18.8、青森地区は同横バイの 2.5 となる見通しである。主要 BSI をみると、「売上高 BSI」は 3 地区とも上昇が続くと見込まれている。「出荷高 BSI」、「採算 BSI」は津軽地区、県南地区で上昇し、青森地区は低下が見込まれている。「受注高 BSI」は青森地区、県南地区で大幅に低下し、3 地区とも厳しい状況が予想される。

(以上、1 表 参照)

(1 表) 地域別 B S I の推移

	業況BSI			生産高BSI			出荷高BSI		
	青森	津軽	県南	青森	津軽	県南	青森	津軽	県南
22年10 - 12月期	-22.6	-34.1	-9.1	-11.1	60.0	5.6	-11.1	100.0	0.0
23年 1 - 3月期	-20.7	-31.6	-33.3	-11.1	-50.0	-43.8	11.1	-33.3	-43.8
23年 4 - 6月期	-10.3	-33.3	-30.4	11.1	-16.7	-31.3	22.2	-16.7	-25.0
23年 7 - 9月期	-12.0	-43.6	-15.3	12.5	-37.5	5.3	37.5	-25.0	-5.3
23年10 - 12月期	2.5	-25.0	-6.3	0.0	0.0	6.7	20.0	-33.3	-12.5
来期見通し	2.5	-11.1	-18.8	0.0	0.0	13.3	-20.0	16.7	12.5
	売上高BSI			受注高BSI			在庫投資BSI		
	青森	津軽	県南	青森	津軽	県南	青森	津軽	県南
22年10 - 12月期	-2.6	-40.0	14.3	-28.6	-54.5	-55.6	-2.9	-31.6	18.9
23年 1 - 3月期	-39.5	-36.4	-16.1	-54.5	-45.5	-80.0	5.7	-5.6	-19.4
23年 4 - 6月期	-18.4	-26.1	-23.3	0.0	-63.6	-50.0	20.0	0.0	-11.4
23年 7 - 9月期	-21.9	-22.7	-45.2	0.0	-20.0	-22.2	-16.1	-4.8	-2.6
23年10 - 12月期	-16.1	-18.2	-15.4	0.0	-75.0	-12.5	-3.6	11.8	15.2
来期見通し	6.7	0.0	0.0	-66.7	-75.0	-75.0	3.6	-23.5	9.1
	設備投資BSI			採算BSI			資金繰りBSI		
	青森	津軽	県南	青森	津軽	県南	青森	津軽	県南
22年10 - 12月期	-7.4	-24.3	-19.2	-22.2	-27.5	-12.7	3.7	-12.2	-3.8
23年 1 - 3月期	-14.3	-30.6	-17.0	-5.3	-39.5	-22.8	8.8	-13.9	-1.8
23年 4 - 6月期	-10.7	-25.0	1.9	-19.3	-38.5	-30.4	-1.8	-16.2	-5.6
23年 7 - 9月期	-6.5	-10.5	-7.0	-4.2	-20.5	-10.2	8.5	-12.8	-1.8
23年10 - 12月期	-2.4	-25.7	4.3	2.4	-33.3	-2.0	16.7	-15.2	0.0
来期見通し	-15.0	-20.0	-10.6	-4.9	-22.2	2.0	4.8	-12.1	-4.2

3. 経営上の問題点

「競争の激化」がトップ、産業間でバラツキ

経営上の問題点については、「競争の激化」が61.6%でトップとなった。以下、「売上・受注不振」が59.2%、「収益低下」が42.4%、「仕入単価上昇」が32.8%、「販売・受注単価低下」が28.0%などと続いた。

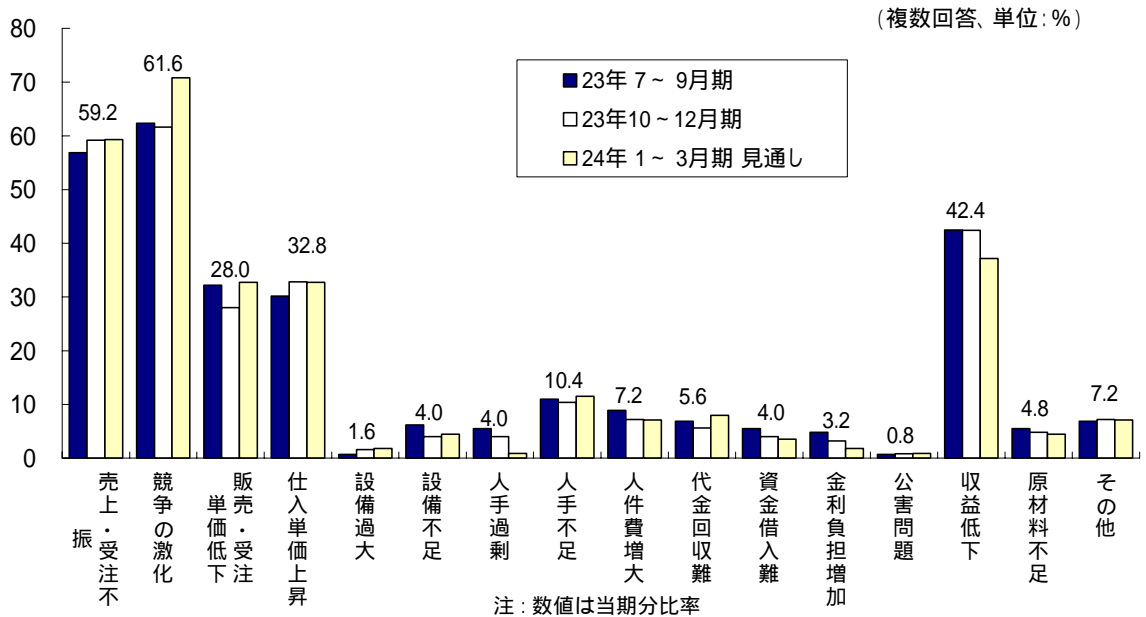
産業別にみると、製造業は「売上不振」、「仕入単価上昇」が同率でトップとなり、建設業は「受注不振」、「競争の激化」が同率でトップとなった。卸売業は「売上不振」、小売業、運輸・サービス業は「競争の激化」がトップとなった。

小売業は「競争の激化」が8割を超えたが、「売上不振」など他の項目は3割未満にとどまった。また、運輸・サービス業のうち運輸業では「人手不足」が5割を超え、「人件費増大」が約3割と他の産業に比べ高い割合となるなど、産業別にバラツキがみられた。

なお、来期の経営上の問題点については、当期とほぼ同じ状況が見込まれる中、「競争の激化」が増す見通しとなっている。

(以上、11図、付表 参照)

(11図) 経営上の問題点



(付表) 経営上の問題点

(複数回答、単位：%)

	売上・受注不振	競争激化	販売・受注単価低下	仕入単価上昇	人件費増大	代金回収難	金利負担増加	収益低下
22年10 - 12月期	58.0	70.7	34.7	24.0	10.0	7.3	6.7	42.7
23年 1 - 3月期	-	-	-	-	-	-	-	-
23年 4 - 6月期	62.5	59.9	30.3	30.9	7.2	5.3	5.9	52.6
23年 7 - 9月期	56.8	62.3	32.2	30.1	8.9	6.8	4.8	42.5
23年10 - 12月期	59.2	61.6	28.0	32.8	7.2	5.6	3.2	42.4
来期見通し	59.3	70.8	32.7	32.7	7.1	8.0	1.8	37.2

4. 来期の見通し

来期(24年1~3月期)の「業況BSI」は、全産業ベースで当期比0.8ポイント低下の-9.7と幾分低下する見通しである。産業別にみると、小売業が同28.6ポイント低下の-4.5、建設業が同27.3ポイント低下の-27.7と大幅に低下すると見込まれている。一方、卸売業は同25.9ポイント上昇の3.4、運輸・サービス業は同14.8ポイント上昇の7.4となり、製造業が同横バイの±0.0となる見通しである。

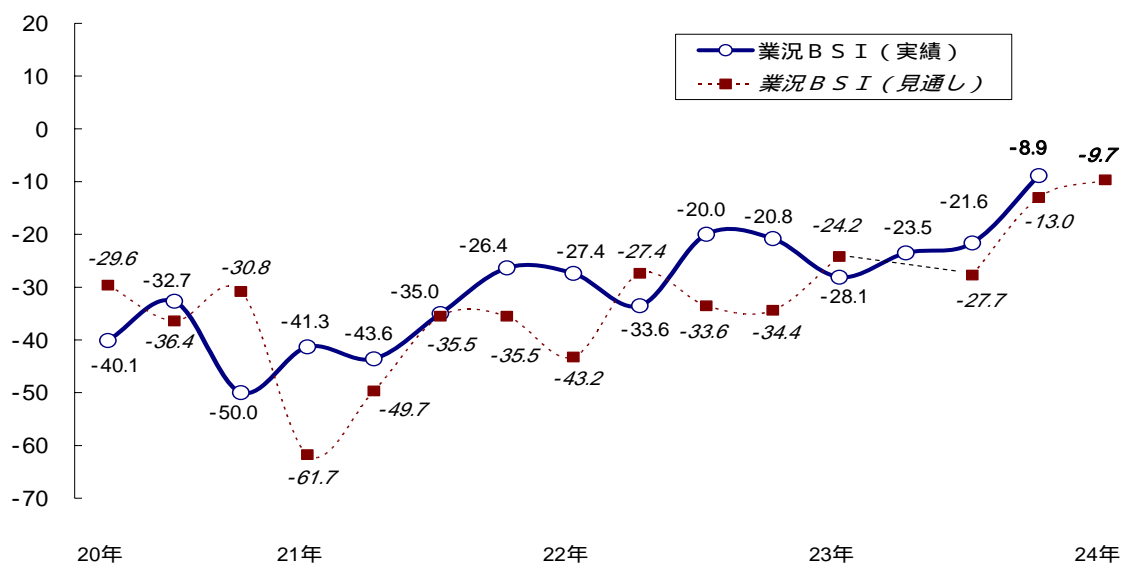
次に「採算BSI」をみると、全産業ベースで当期比2.3ポイント上昇の7.1と幾分改善

する見通しである。産業別にみると、運輸・サービス業が同18.5ポイント上昇の7.4、製造業が同14.8ポイント上昇の3.7と、それぞれ改善が見込まれている。一方、小売業は27.2ポイント低下の-4.5と大幅に低下し、建設業は45.5、卸売業は3.4と、ともに同横バイとなる見通しである。

その他の主要BSIは、「生産高BSI」、「売上高BSI」、「出荷高BSI」は上昇する見通しである。一方、「受注高BSI」はさらに低下する見通しとなっている。

(以上、1~12図、付表参照)

(12図) 業況BSIの見通しと実績の推移



(付表) 業況BSI、採算BSIの来期見通し

		製造業	建設業	卸売業	小売業	運輸・サービス	合計
業況BSI	23年10 - 12月期	0.0	-31.8	-29.6	42.9	-18.5	-8.9
	来期見通し	0.0	-59.1	-3.7	14.3	-3.7	-9.7
採算BSI	23年10 - 12月期	-11.1	-45.5	-3.4	22.7	-11.1	-9.4
	来期見通し	3.7	-45.5	-3.4	-4.5	7.4	-7.1

【特別調査】 県内企業の平成 23 年冬のボーナス支給状況

業況調査と並行して、県内企業の平成 23 年冬のボーナス支給状況について特別調査を実施した。調査要領は企業業況調査と同様であるが、回答企業は 79 社であった。

- 支給額はほぼ前年並み、前年比 0.2%減 -

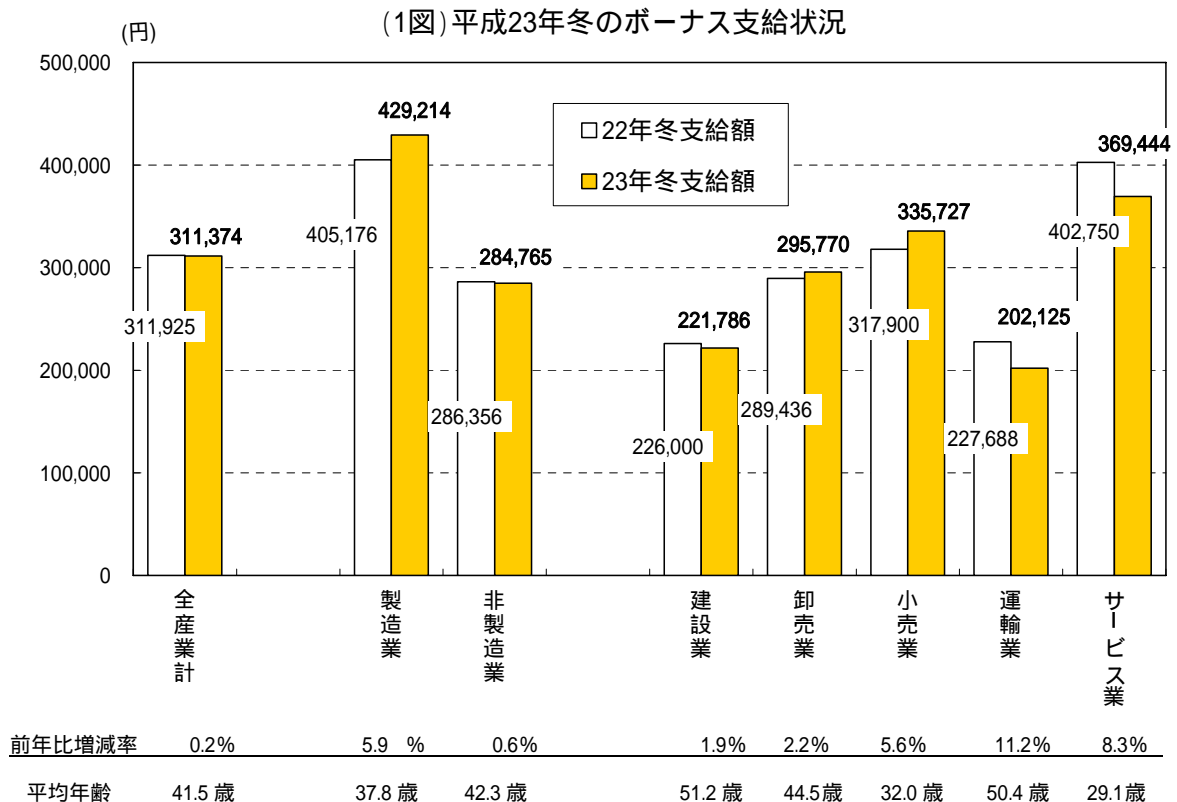
県内企業の平成 23 年冬のボーナス平均支給額は 31 万 1,374 円となり、前年比で率にして 0.2%、金額で 551 円下回った。(回答企業の前年冬実績比)

産業別の平均支給額をみると、製造業が前年比 5.9%増、金額にして 2 万 4,038 円増の 42 万 9,214 円、一方、非製造業は同 0.6%減、1,591 円減の 28 万 4,765 円となった。非製造業を業種別にみると、卸売業が前年比 2.2%増、6,334 円増の 29 万 5,770 円、小売業が同 5.6%増、1 万 7,827 円増の 33 万 5,727 円と、それぞれ前年実績を上回った。一方、建設業は同 1.9%減、4,214 円減の 22 万 1,786 円、

運輸業は同 11.2%減、2 万 5,563 円減の 20 万 2,125 円、サービス業は同 8.3%減、3 万 3,306 円減の 36 万 9,444 円となった。

今冬のボーナス支給状況をみると、製造業、卸売業、小売業が前年実績を上回ったものの、建設業、運輸業、サービス業は下回り、全体ではほぼ横バイとなった。ただ、製造業と非製造業では平均支給額に約 14 万円の格差が生じており、非製造業間でも運輸業とサービス業で 16 万円以上の格差が生ずるなど、産業間でボーナス支給状況にバラツキがみられる。

(以上 1 図 参照)

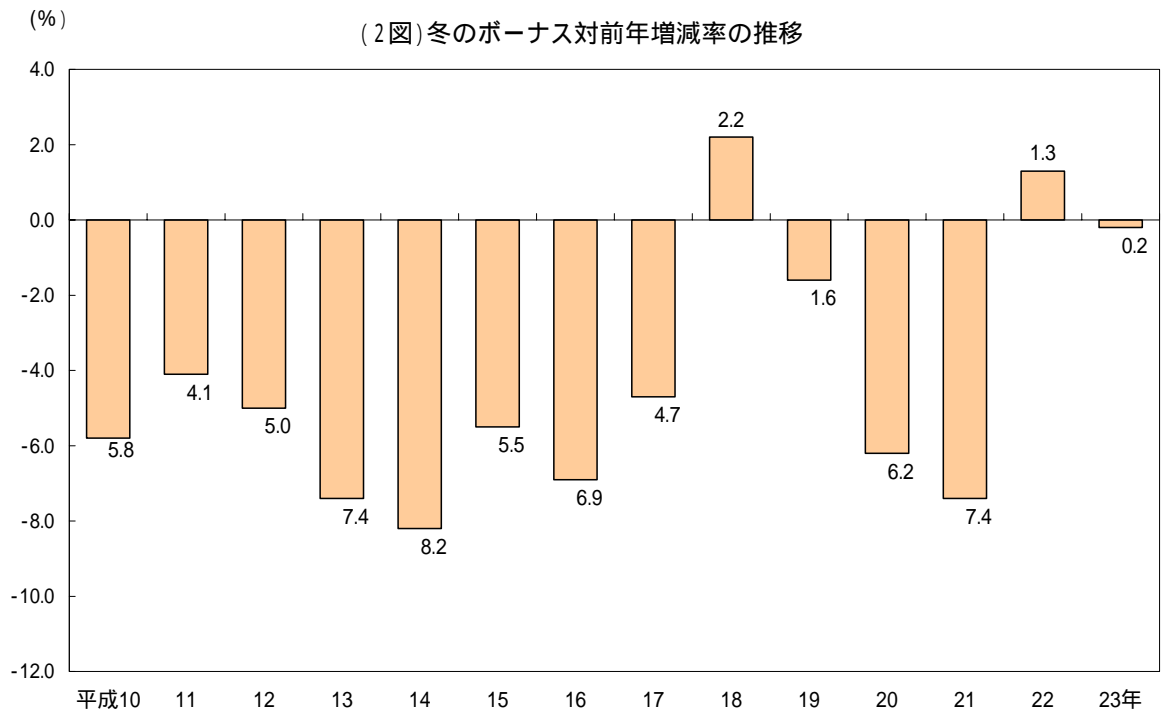


なお、県内企業の冬期ボーナス支給状況を前年比増減率(当行調査)で見ると、平成22年は4年ぶりにプラスに転じたが、今回調査ではほぼ横バイの0.2%となった。

て厳しさが続いているものの、ボーナス支給については減少傾向に幾分歯止めがかかっている様子うかがわれる。

(以上 2 図 参照)

県内企業を取り巻く経営環境は依然とし



【 本件に関する照会先 】

一般財団法人 青森地域社会研究所

担当：野里

TEL.017-777-1511